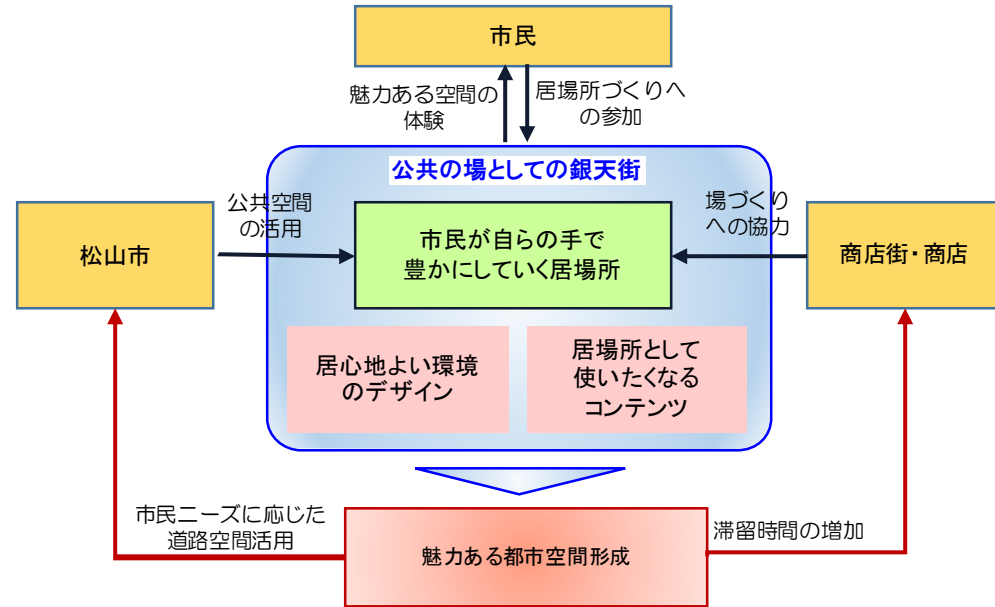


3 実証実験の企画

(1) 実施概要

■実施の目的とねらい

- 魅力ある都市空間形成によるにぎわいの創出を実現するため、市民に親しまれた商業空間である中央商店街（銀天街）に居心地のよい滞留空間を整備し、その効果を検証する。
- 松山市、地元商店等と市民の三者が共働しながら魅力ある都市空間を形成するため、市民が自らの居場所を豊かにするためのコンテンツを考え、育てていくきっかけをつくる。



■実施内容

1) 居心地よい滞留空間の整備・管理

- 銀天街を通行している人が、日常生活の中で、自然なかたちで、より多くの時間を過ごすようになることを目的として、空間デザインの工夫により、快適で居心地の良い環境をつくる。
- 大街道で得られた、滞留空間づくりに関する知見を踏まえつつ、銀天街の空間特性に即した滞留空間をデザインし、環境を整備する。(約一か月間常設。朝夕に設置と撤収を実施)



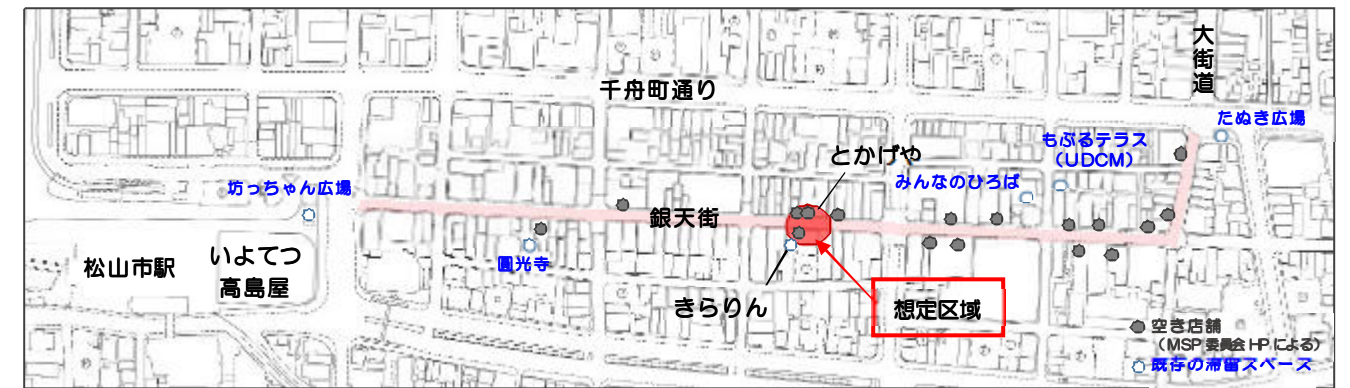
2) 市民参加によるワークショップ等の開催

- 銀天街は空間的な制約もあり、市民の居場所をつくる上でハード環境を整えるだけでは、不十分である。市民がまちとつながりをもつこと、そしてその中で感じる暮らしの豊かさを自らの手で高めていけるような環境づくりが必要とされる。
- 銀天街の特徴を生かしながら、公共の空間を、日常的に豊かな居場所として使いこなすためのアイデアを市民が自ら検討・提案するためのワークショップを企画・運営し、提案されたアイデアの一部を実証実験の期間中に試行する。

■実施箇所と区域設定の考え方

○「きらりん」の入り口付近を実証実験の区域とする

- ⇒昨年より商店街の無料休憩スペース（きらりん）が設置・管理されており、休憩スペースの一部を利用することで公共（道路）と民間（敷地道路際）との一体的に活用した実験が可能。
- ⇒商店街が運営する休憩スペース前であることから維持管理等において地元商店街の協力が期待できる。
- ⇒銀天街の中央部分であり、付近には空き店舗が集中しているため、空き店舗への対応を検討する題材としても好適である。
- ⇒現在も道路上に休憩用のベンチをまとめて設置しており、現状との比較もしやすい。



【周辺の既存の滞留空間】



坊っちゃん広場



みんなのひろば



圓光寺



たぬき広場

3 実証実験の企画

(2) ハード：滞留空間整備の方針

- ・建物内外を利用／店舗前を利用 の2パターンの滞留空間づくりと空き店舗活用を行う。

■パターン A：公共と民間にまたがる領域を利用し、まとまった滞留空間をつくる

ポイント① 物理的な空間の確保が出来る。

- ・銀天街のような幅員が8m程度の街路では、店舗前の動線や緊急車両動線を確保すると、設置する場所がほとんどなく、まとまった滞留空間を確保することが難しい。

⇒公共空間と民間建物がまたがる形で設定し、**まとまりのある滞留空間を設置する。**

ポイント② 管理や監視が建物内からしやすく、運営しやすい。

- ・質の高い滞留空間を維持するためには、実際の管理以上に、管理している人間の存在を利用者が感じる事が重要である。

⇒一体利用によって、**建物側から簡単に目が届き、管理しているイメージもつきやすいので、質の高い滞留空間を維持しやすい。**

ポイント③ 公共性の担保と空間の分かりやすさが課題

- ・建物からはみ出した空間に見えるため、その建物利用者専用の空間であると思われる可能性がある。

⇒**公共性の高い滞留空間であることを意識し、また利用者に対しても利用が容易であることをすぐに理解されるような設えが求められる。**

■パターン B：空き店舗前などの小スペースを利用し、滞留空間を設ける

ポイント① 空きスペースを有効活用する

- ・空き店舗の前面 1.5m幅程度を利用し、滞留空間を設けることで、賑わいの連続性を作り出す。

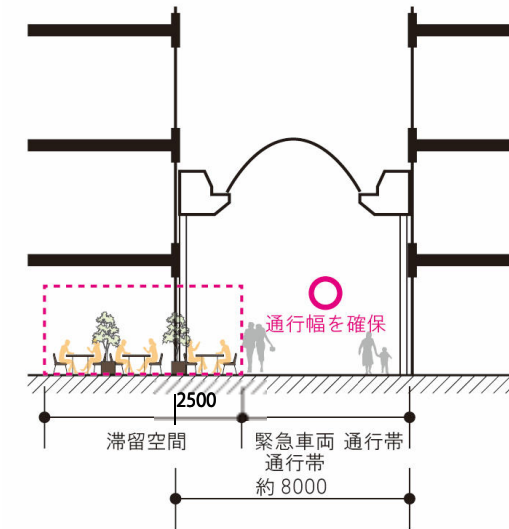
■シャッター活用：空き店舗シャッターを活用した、賑わいづくり

ポイント① 空きシャッターを有効活用する

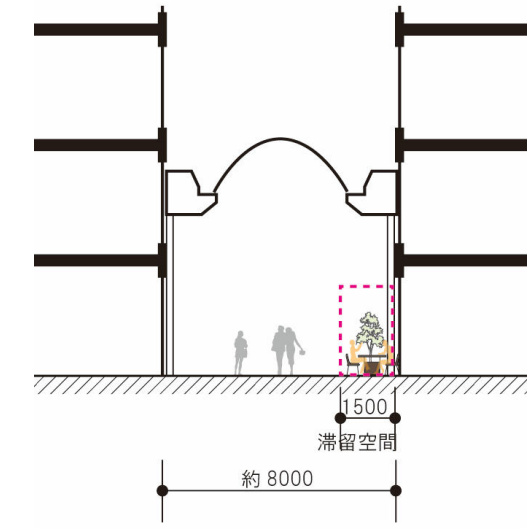
- ・商店街沿道に空き店舗シャッターが存在することにより、空間の雰囲気損なわれ、賑わいが途切れるという問題が起きている。そのため、布や壁紙でシャッターをデコレートしたり、シャッター面を使った滞留空間を設けたり、シャッター活用を推進する。

※滞留空間形式の配置イメージ

パターン A：建物内外を利用した滞留空間



パターン B：店舗前を利用した滞留空間



※パターン A・B とシャッター活用の組み合わせで滞留空間を構成する



※空き店舗シャッターを有効活用した事例



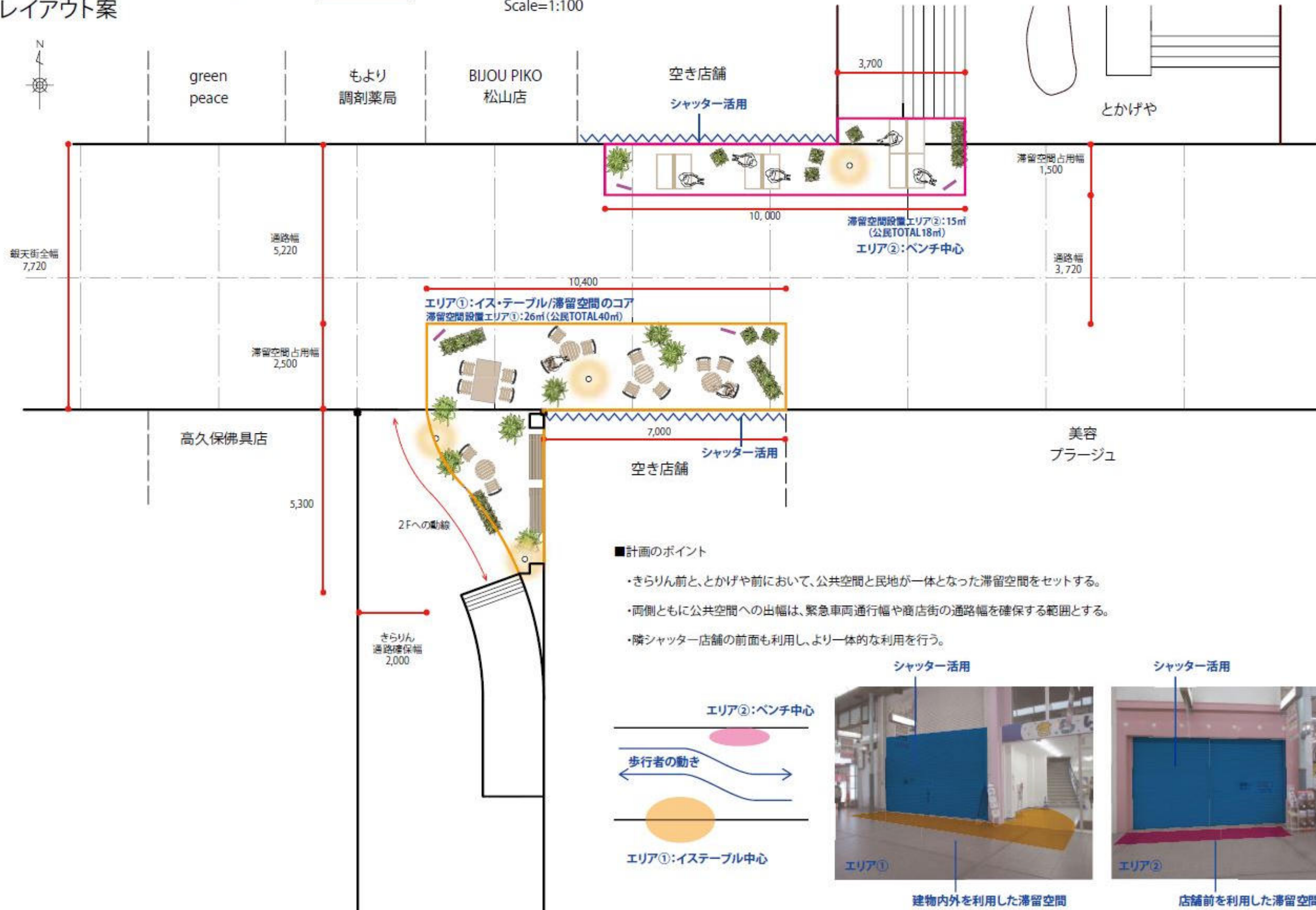
※本棚とメッセージボードを設置した事例
コミュニケーションを誘発する仕掛け。
(沖縄県 牧志商店街パラソル通り)



※空き店舗前に木製パネルを置き、パネルを倒したらイス・テーブルになる仕掛け。
(福岡県 北九州市サンロード魚町)

3 実証実験の企画

滞留空間範囲 計画図 0 2.5 5 10m
レイアウト案 Scale=1:100



3 実証実験の企画

(3) ソフト：市民参加プログラム (WS)

■目的

- ・公共空間の居心地を良くし、楽しく使いこなし、市民の財産として価値を高めていくため、社会実験で期間限定的に滞留空間が整備される機会を活用し、市民が自らアイデア※を検討・提案し、実行していく取組みを試行する。

※アイデア：一過性のイベント等ではなく、まちなかでの日常的な居心地を良くする空間づくりや、持続可能な利活用の方法、仕掛け、仕組みなど。

■活動内容

- ・ワークショップを開催してアイデア・提案を検討すると同時に、社会実験として約一ヶ月間設置される滞留スペースを使って、検討したアイデアのうち一部を、実際にワークショップ参加者が試行する。
- ・検討・提案されたアイデアが、今後、上記以外の場所も含めて、松山のまちなかの空間において、市民自らの手によって実現されていくことをめざす。

1. 全体ワークショップへの参加（アイデアの提案・検討、試行プロジェクトの提案）
2. チーム別のミーティングや試行プロジェクトの準備ワーク
3. 滞留スペースでの試行プロジェクトへの参加
4. 試行プロジェクトの結果を踏まえたアイデアのとりまとめと公開プレゼンテーションの参加

■参加者

- ・本ワークショップの企画趣旨に関心のある松山市民。デザイン事務所、設計事務所の実務者の他、市内のイベント企画担当者や雑誌編集者、アーバンデザインスクール生、学生等が参加する予定。

■想定されるテーマやワークショップの提案例（右記：ビジュアルイメージ）

- 【まちなかを素敵にするデザイン】 ⇒ 新しいまちなかのサインやロゴ
- 【市民の日常を楽しむコトづくり】 ⇒ まちなかの店舗と市民を結ぶマルシェ、
- 【市民とまちとをつないでいく仕掛け】 ⇒ 本を活用してコミュニケーションを誘発するまちなかライブラリー

ビジュアルイメージ



神戸市
(神戸ミュージアムロード美かえるカラフルプロジェクト)



東京都港区
(ヒルズマルシェ)



松山市
(大街道街なか空間活用実験)

3 実証実験の企画

(4) 広報

■基本的な考え方・視点

- 銀天街で“これから何が起ころうとしているのか”“今どんなことが行われているのか”を分かりやすく伝えるため、シャッターを活用したプロモーションを中心として、新しい動きや取組みを認識してもらいやすいように可視化する
- 特に、日常的に銀天街を通行する利用者・来街者をターゲットとして、実験を実施する銀天街周辺エリアの現場を活用したプロモーションに重点を置く

■広報に関する企画の検討

①チラシ・看板等の設置

- ・チラシは、効果的なタイミングを絞り、作成・配布
⇒WS開催時の案内／社会実験開催の案内／公開プレゼンの案内
- ・特に日常的な利用者に届きやすい配布先を検討
⇒商店街の各店舗へ、配布・設置の協力を依頼
- ・実験中の看板は、“誰でも自由に利用できる空間”であることが一目で分かるように設置



②空き店舗シャッターの活用検討

銀天街は幅員が狭いため、視界に入る店舗の存在感や情報量が大きく、チラシやポスターなど通常の情報発信媒体の存在は、視覚的に埋もれてしまう可能性がある

実証実験のプロモーションとして、空き店舗のシャッターを利用した情報発信を検討

[概要]

- ・きらりん近隣の空き店舗のシャッターの活用
- ・実証実験の告知や広報等の情報発信
- ・まちへの印象の変化や活用を通じたメッセージなど、市民とまちの関係を縮める・つなげるためのコンテンツ等の展開



[期待される効果・目的]

- 見慣れた風景に変化を与える
- 銀天街で新しい何かが起こるという期待感を醸成
- まちが身近な場所であることに気付くきっかけを与え、地元を含めた市民の意識の転換を図る

[発信内容と活用のイメージ(案)]

○実証実験の告知や広報等の情報発信

【例】

- ・ポスター広告：実証実験自体の告知
- ・写真展示：WSの様子、実験の内容や日程の告知



○市民とまちの関係を縮める・つなげるためのコンテンツ等の展開

【例】

- ・利用者へのヒアリングを通じたまちへのメッセージやアクティビティの可視化
- ・その他、WS等の取組みを通じたコンテンツによる発信 など



※具体的な発信内容と発信方法については今後検討（WSでの意見交換含め）

■その他の取組み

実証実験は、誰もが居心地良く、質の高い公共空間を実現するためだけに実施するのではなく、実証実験での取組みや働きかけを通し、様々なヒトやモノ、コトが繋がっていくことも重要と考えるため、下記の取組みについても検討を行う

①公開ワークショップの実施

- ・ワークショップの一部を、実施想定場所である、きらりん等の商店街で実施することを検討
⇒来街者の実証実験への関心やまちに対する親近感を高める

②多様な主体のまちづくり活動を可視化する舞台として実証実験の場を活用

- ・周辺でまちづくりの取組みを行うプレイヤー（商店街、各店舗、UDCM等）の活動やPRの舞台として実証実験の場を提供
⇒市民とまちとをつなぐねらいが効果的に達成され、公民一体となった空間形成を目指す新たな枠組みづくりのきっかけにもなり得る

3 実証実験の企画

(5) 実験の検証方法

■実証実験の効果・影響について


・実証実験の調査及び検証においては、本実験の効果・影響とは何かを適切に設定することが重要である。

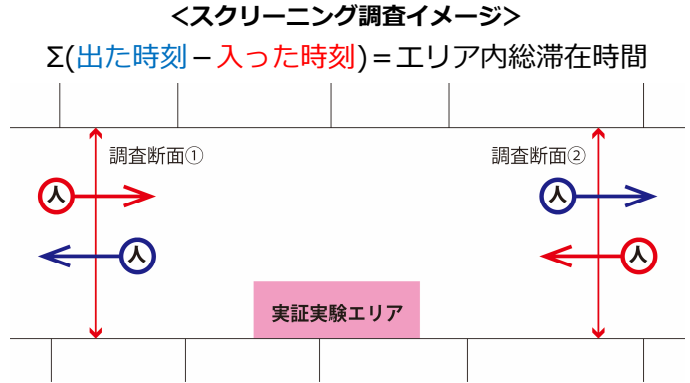
・本実証実験では、**1) 商店街に日常的な居場所を創出すること。2) 市民の居場所を豊かにするようなコンテンツを市民が参加しながら育てること**、の2つを狙いとしており、これらを踏まえて、本実験の実施による効果や影響を以下のようなものにとらえて調査を行う。

定性的効果	① 利用者等の満足度	✓ 利用者等（非利用者を含む）の満足度によって、本実験が利用者に受け入れられているか、またどのようなニーズがあるかを把握する。
	② 周辺店舗での集客・売上UP	✓ 実験による周辺店舗への好影響を確認する。また、悪影響が出ていないかも合わせて確認する。
定量的効果	③ 歩行者動線の変化	✓ 本実験の結果、実験空間付近での歩行者動線の変化を確認する。
	④ 本実験での滞在時間UP	✓ 利用者の日常的な滞在時間が伸びていることを確認する。

効果検証のための調査について

実証実験の効果を把握・検証するために以下のような調査を行う。

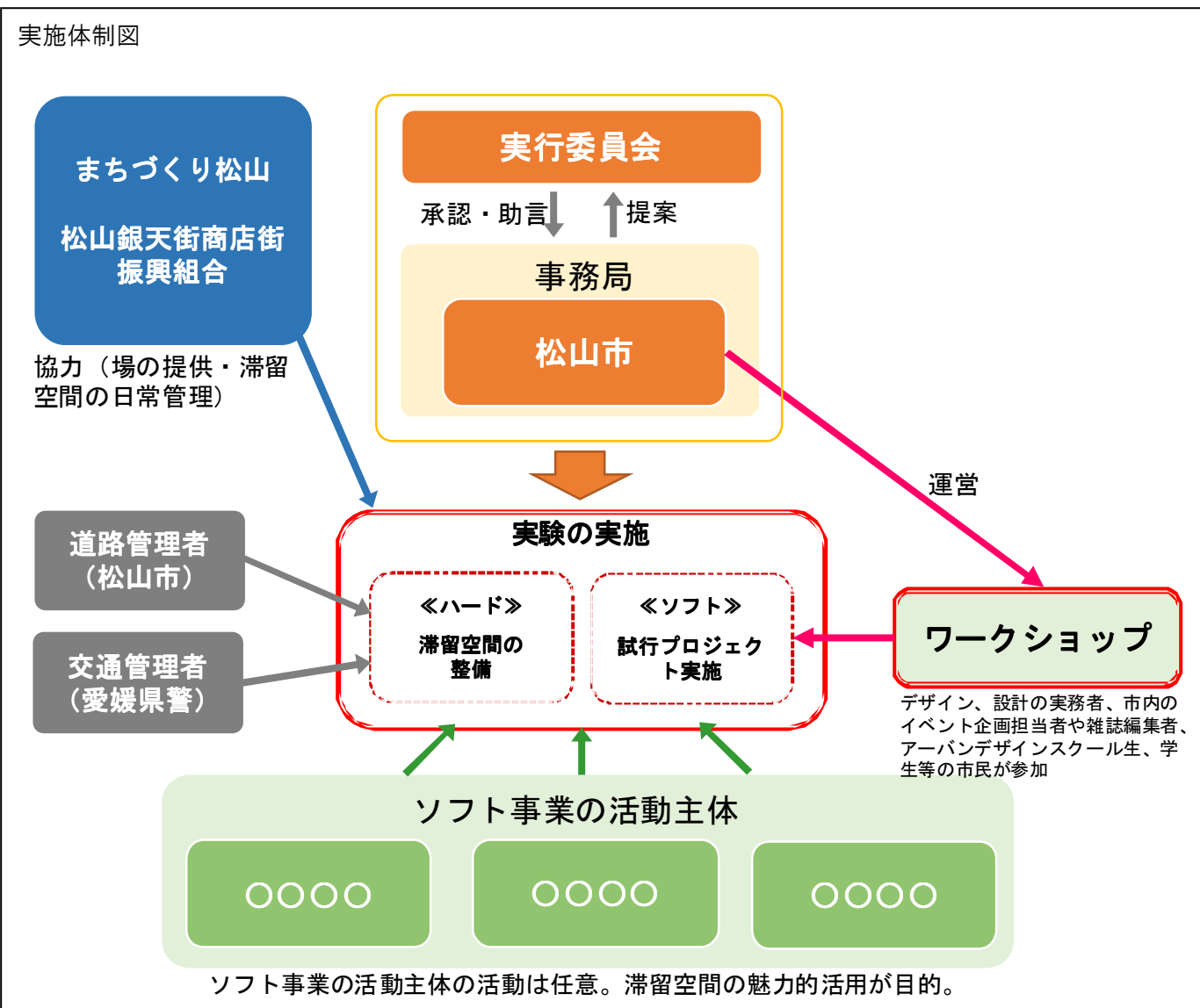
① 利用者等の満足度	<p>調査手法：アンケート調査&聞き取り調査（平日休日各一日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞留空間のテーブルなどにアンケート用紙を留置し、利用者に対して、来街目的や属性等の基本情報と自由記述をアンケートする。 ・利用属性・リピーター率・また使いたいと思うか等で、利用者にとって必要かどうかを評価。 ・期間中の平日・休日のある1日を設定し、利用者・非利用者両方に対して、聞き取り調査を実施する。 <p><テーブル上のアンケート設置イメージ></p> 
------------	--

② 周辺店舗への集客・売上UP ※実験前・後の2回行う	<p>調査手法：聞き取り調査（各店舗1回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺店舗に対して、実験前後で売上や来客数の増減等を聞き取り調査する。
③ 歩行者動線の変化 ※実験前・中の2回行う	<p>調査手法：防犯カメラの録画映像を用いた軌跡トレース調査（平日・休日各1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証実験エリア付近の防犯カメラの録画映像を用いて、実験前後における歩行者動線の変化を調査する。 ・実証実験エリアを回避するような動線や、興味を引かれて寄っていくような動線など様々な歩行者動線の存在を把握し、その時間内での歩行者動線の軌跡をマップ上に記録。
④ 本実験での滞在時間UP ※実験前・中の2回行う	<p>調査手法：現地におけるスクリーニング調査（平日・休日各1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直線的な空間構成であることを活かし、実験区間を含む設定範囲について、2か所の断面を設け、実験前後で歩行者のスクリーニングを行う。 ・調査断面を歩行者が通過した際の時刻を一人一人記録し、時刻差の総和から通行者の総滞留時間を計測。 <p><スクリーニング調査イメージ></p> <p>$\Sigma(\text{出た時刻} - \text{入った時刻}) = \text{エリア内総滞在時間}$</p> 

3 実証実験の企画

(6) 実施体制とスケジュール

- ・実施主体は、実行委員会とする。事務局（松山市）より実施内容を提案し、助言及び承認を受ける。
- ・日常管理（滞留空間のイスやテーブル、植栽等の毎日の出し入れ等）は、松山銀天街商店街振興組合の協力のもと、きらりん（休憩施設）及び沿道の店舗スタッフが実施する。
- ・ワークショップで検討されたアイデアのうち、一部、実験期間中に試行が可能なものは、内容によって調整を行った上で、滞留空間を活用した試行を行う。
- ・滞留空間が設置された一ヶ月の期間中、市民の自主的な活動主体（ソフト事業の活動主体）により活用されるよう働きかけ、必要に応じて調整を行う。



■実施スケジュール

